



なるほど！東紀州 ひがしきしゅう シリーズ⑤

くま の ことう

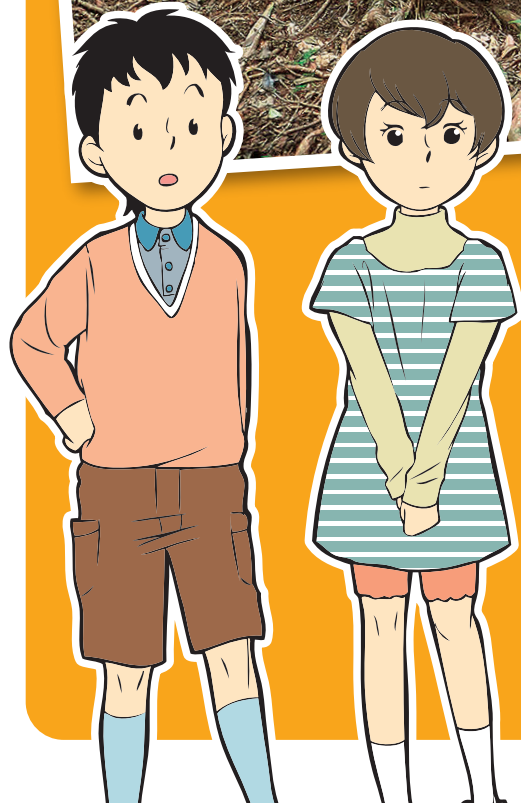
# 熊野古道は

# どつやつて守られて

# きたのかな？



熊野古道はどつやつて  
守られてきたのかな？

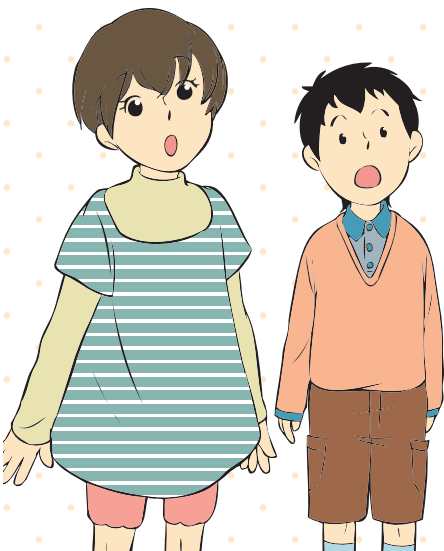


三重県

# 熊野古道は 誰が作ったの？



何で道に  
石がいっぱい  
敷かれているの？



遠い昔の人は、自動車や電車もなく、どこへ行くにも自分の足で歩いて行かなければなりません。仕事で山や畑に行くときも、隣の町に行くときも、いつも歩いて行きました。そのために、自分たちで苦労して少しずつ道を作りました。今では大きな機械や道具を使って道を作りますが、昔はすべて人の力だけで作ったので、大変な労力と時間がかかりました。そのため、今のように広くて立派な道ではなく、人がやっと通れるような細い道でした。

今、私たちが歩いている「熊野古道」も、昔この辺りに住んでいた人たちが、何百年もかけて少しずつ作ってきた道です。その当時の人々が生活のために利用した道、それが「熊野古道」の昔の姿です。



松本峠の石橋

ツツラト峠の石畳

私たちが住んでいる東紀州地域は、大変雨の多いところで、1年間に約4,000mmも降ります。大雨が降ると、峠を越える道は水の力で削られたり崩されたりします。そこで、昔の人たちは、急な坂や谷沿いの道を大水から守るために、石を敷きました。これが今でも「熊野古道」に残っている石畳です。

松本峠の坂道は、谷沿いの山を削り、谷に大きな石の橋をかけて、歩く人たちが安全に通れるように工夫しています。石橋の長さは約2m 50cm、厚さは45cmもあります。大きな機械のなかった時代ですから、大変な作業だったことでしょう。

世界遺産「熊野古道」は、地域の人たちの長い時間の努力の末にできた道なのです。

コラム

## 災害にも崩れなかった石畳 (馬越峠)



2004年(平成16年)9月28日から29日にかけて、この

地方に記録的な大雨が降り、赤羽川(紀伊長島町、今の紀北町)と船津川(海山町、今の紀北町)が氾濫し、大きな被害を受けました。

この時、海山一尾鷲間の国道42号線が崩れ、通行止めになりました。(当時は紀勢自動車道が開通していませんでした。)

しかし、紀北町と尾鷲市を結ぶ馬越峠の石畳道は、ほとんど被害がなかったため、多くの人たちがこの道を歩いて復旧の応援に行けたのです。

二重に石を敷き詰めたり、雨水を谷川に流すための「洗い越し」と呼ばれる排水路を作ったりするなど、昔の人々が知恵を絞り工夫して作ってきた石畳道は、大雨にも強い道なのです。

昔の人たちの知恵ってすごいわね。



# 昔は、誰が 守っていたの？

昔の人たちのおかげで  
今の熊野古道が  
あるんだ！



機械化が進んだ現在でも、台風や大雨により破壊された道路の復旧作業が大変です。ましてや、昔の人たちが倒れた木を起こし、崩れた石畳を直し、道を元通りに戻す作業は大変な苦勞でした。この作業には、たくさんの勞力と時間を要したことでしょう。

私たちの先祖は、みんなで力を合わせ、知恵を出し合っ、自分たちの力でその道を直しました。そして、日頃から絶え間ない点検を行い、ずっと守り続けてきたのです。



始神峠の整備作業



八鬼山道の駕籠立場跡



いろんなことが  
考えられて、  
整備されるのね。



私たちが現在目にする世界遺産「熊野古道伊勢路」は、江戸時代（約400年前）以後に整備されたものです。その頃この地方は、和歌山に城を持つ徳川氏の紀州藩が治めていました。紀州藩は、和歌山に通じる道の整備に力を入れました。今の「熊野古道」の道幅が一間半（約2.7m）あるのは、紀州藩の殿様が乗る駕籠の幅に合わせたものだとされています。

この頃の道の整備にも、紀州藩の命令で私たちの地域の人々がたくさん働かされていました。

コラム

### 江戸時代の石畳と明治時代の石畳



私たちの地域にある「熊野古道伊勢路」には、すばらしい石畳道が残されています。一見同じように見える石畳も、敷かれた年代が違ってきます。

江戸時代に作られた石畳は、古道沿いの山や谷から取った自然石で作られました。しかし、明治時代には、遠くの採石場から運び込まれた石材が用いられたりもしています。

江戸時代に作られた石畳は、古道沿いの山や谷から取った自然石で作られました。しかし、明治時代には、遠くの採石場から運び込まれた石材が用いられたりもしています。

始神峠や八鬼山道には、江戸道と明治道がありますから、歩いてみてください。（明治道は世界遺産には登録されていません。）

また、波田須の道（熊野市）の石畳は、伊勢路の中で一番古く、一つひとつの石が大きく、敷き方も豪快で、鎌倉時代のものと言われています。



波田須の道



時代によって  
石畳の大きさが  
違うんだね。

# 熊野古道はずっと 使われてきたの？

平安時代の終わり頃からしだいに熊野への参詣が盛んになり、巡礼者たちも昔の「熊野古道」を通るようになりました。鎌倉時代から室町時代には、「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど、伊勢から熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）への参詣が活発だったようです。

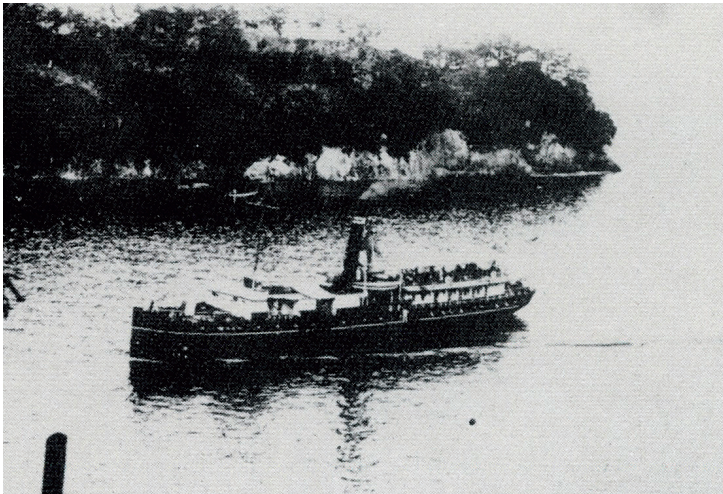
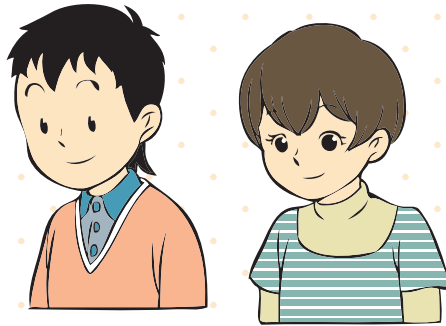
この頃の「熊野古道」は、この地域に住む人たちの「生活の道」でもあり、「産業の道」でもありましたが、一方では「巡礼の道」でもあったのです。

江戸時代の享和元年（1801年）には、巡礼者が3万人通ったという記録も残っています。



三重県立熊野古道センター所蔵

時代の流れとともに、  
交通手段も大きく  
かわっていったんだ。



九鬼港に入る大阪商船(大阪-名古屋間の定期船)

明治時代以後、様々な交通機関が発達しました。陸上だけでなく、海の交通（「海の熊野古道」）も国鉄紀勢本線が全通（昭和34年）するまでは、重要な役割を果たしていました。さらに世の中が近代的になってくると、生活も便利になり、この地方にも新しい国道が通り、乗り合いバスや自家用車でどこにでも行けるようになってきました。また、山にも新しい林道が作られました。

そのため、生活や産業、巡礼のために人々が通っていた昔の「熊野古道」は、だんだん使われなくなっていきました。石畳道にも草が生え、木が茂るようになるなど、しだいに荒れていったのです。そして、人々の心から徐々に消えようとしていきました。

コラム

## 東紀州の石積み文化



私たちの住む東紀州地域は、岩山の多い地域です。この地域

では昔から石を生活の道具として利用する技術が発達していました。

「熊野古道」には石畳道がありますが、石を使った垣根や田んぼにも石垣が使われています。また、イノシシや鹿が作物を荒らすのを防ぐために石を積み上げて作ったしし垣があります。熊野古道の曾根次郎坂・太郎坂には、寛保元年（1741年）に作られた、高さ2m、総延長2kmの立派なしし垣が残っています。



しし垣

生活のなかで石を上手に利用してたんだね。



# なぜ、<sup>いま</sup>今もきれいに <sup>のこ</sup>残っているの？

今、<sup>わたし</sup>私たちが<sup>かぞく</sup>家族や<sup>とも</sup>友だちと<sup>ある</sup>歩く「<sup>くまのこどう</sup>熊野古道」は、<sup>あおあお</sup>青々とした<sup>きぎ</sup>木々、<sup>こけ</sup>苔むす<sup>いし</sup>石畳、<sup>だたみ</sup>峠から<sup>み</sup>見える<sup>うつく</sup>美しい<sup>けしき</sup>景色など、<sup>たいへん</sup>大変<sup>せいび</sup>整備された<sup>すばらしい</sup>すばらしい道です。しかし、20年～30年ほど前までは、<sup>つち</sup>土や<sup>ざっそう</sup>雑草、<sup>ざうき</sup>雑木に<sup>あ</sup>埋もれて<sup>あ</sup>荒れ果てた<sup>みち</sup>道も多かったです。

そこで、<sup>たお</sup>倒れている<sup>と</sup>木を<sup>のぞ</sup>取り除き、<sup>お</sup>生い茂った<sup>くさき</sup>草木を<sup>ばっさい</sup>伐採し、<sup>あ</sup>埋もれた<sup>いし</sup>石畳を<sup>そうじ</sup>掃除するなど、<sup>ほ</sup>埋もれた<sup>お</sup>古道を<sup>た</sup>掘り起こして<sup>れきし</sup>歴史のある「<sup>くまのこどう</sup>熊野古道」を<sup>さいげん</sup>再現しようと、<sup>た</sup>立ち上がった<sup>ひと</sup>人たちがいました。そして、<sup>すこ</sup>少しずつ<sup>わ</sup>その<sup>ひろ</sup>輪が広がっていったのです。

みんなが守ってきたから  
ぼくたちも大切に  
しなきゃね。



馬越峠の石畳





松本峠の整備作業

熊野古道を守るためには、たくさんの力が必要なんだよ。



草木を伐採して道を整備 (荷坂峠)

荒れ果てた「熊野古道」を元の姿に戻そうと、三重県や東紀州地域の市や町と地域の住民が一緒になって「熊野古道整備計画」(1996年3月)を作りました。そして、地域の人たちの積極的な活動が実を結び、「熊野古道」がだいに元の姿を取り戻していきました。地域が一体となったこれらの活動は、「熊野古道」を有名にし、世界遺産登録(2004年7月7日)につながっていきました。

今でも「熊野古道伊勢路」の各峠道には保存会があり、「熊野古道」の清掃や危険箇所の点検・修復などの活動をしています。

このように、世界遺産「熊野古道」は、地域の人たちの様々な活動によって守られているのです。

コラム

## 熊野古道語り部さんの活躍



世界遺産登録前

までは、「熊野古道」を歩く人はほとんど

いませんでしたが、登録後はだいに増え、平成23年度には約25万人の人たちが「熊野古道」を歩きました。その人たちのガイドを引き受けているのが、語り部さんです。

熊野古道やその近くの町の歴史や自然、文化を紹介しようと、世界遺産登録前の1999年、「熊野古道語り部友の会」ができました。最初は30人ほどのメンバーも、今では約200人となり、東紀州の各峠道をガイドし、熊野古道や東紀州地域の魅力を紹介しています。



語り部による案内ガイド

語り部さんと歩く熊野古道もおもしろそう！



# どうやって未来につないでいくの？

私たちの住む東紀州地域は、山や川や海の自然に恵まれたとても素晴らしいところ。そして、何よりも世界遺産「熊野古道」があります。日本中で16しかない世界遺産の1つ（2012年現在）であり、道の世界遺産では世界でたった3つしかないうちの1つですから、とても貴重です。

しかし、こんなに大切な世界遺産「熊野古道」も、過去には荒れ果て、埋もれていたこともありました。大切な世界の宝物である「熊野古道」を、これからもずっと守り続けていくのは、私たち一人ひとりなのです。



世界遺産「熊野古道」を守ろうと、たくさんの人たちが活動しています。伊勢路の各峠を歩く人たちのガイドをしている語り部の人たち。台風などで被害を受けた時に元通りにする作業をしてくれる各峠道の保存会やボランティアの人たち。そして、熊野古道を歩いた人たちに親切に接する地域の人たち。いろいろな人たちの努力で、美しく安全な「熊野古道」が保たれています。

東紀州の各学校でも、熊野古道の学習をしたり、遠足で歩いたりする学校が増えてきました。

私たちの先人が遺した世界の宝物「熊野古道」。私たちは誇りを持って、みんなの力でいつまでも大切に守り続けていきましょう。

コラム

## 魅力がいっぱいの東紀州地域



私たちの住む東紀州地域は、ほかの地域にはないものがたくさんあります。

まず、豊かな自然です。世界遺産「熊野古道伊勢路」をはじめ、山・川・海にはすばらしいところがいっぱいあります。また、この地方にしか見られない貴重な動物（カムリウミスズメなどの海鳥）や植物（リュウビンタイなどのシダの仲間やハマナツメやキノクニシオギクなどの海辺の植物）があります。

次に、食べ物です。サンマ寿司やめはり寿司、カツオ茶漬けや茎漬けなど、めずらしい食べ物がいっぱいあります。

東紀州地域はすばらしいところですよ。自分の体でもっと感じ、その良さを実感してみてください。

きみはどれだけこの地域のことを知っていたかな？

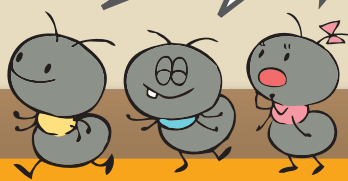


わたしたちの町にある世界の宝もの「熊野古道」。昔  
の人々や地域の人々が大切に守ってきたわたしたちの  
宝ものです。この「熊野古道」をいつまでも大切に伝  
えていくために、次のことは必ず守りましょう。

- ✓ 道であった人には笑顔であいさつをしましょう。
- ✓ ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ✓ 植物・動物などの採集はやめましょう。
- ✓ 道からはずれないようにしましょう。
- ✓ 火遊びは絶対しないようにしましょう。



みんなの力で  
世界遺産「熊野古道」を  
守っていきましょう！



監修 三重県立熊野古道センター  
発行 三重県 地域連携部  
南部地域活性化局 東紀州振興課  
年月 2013年1月発行

〒514-8570 三重県津市広明町13番地  
TEL 059-224-2193 FAX 059-224-2418

本書掲載の文章、写真およびイラスト、図等の無断転載、  
無断引用、二次配布についてはこれを固く禁じます。

